

下達元命令

獨任正命令第六號

獨任正命令第五號

一 取隊の一部、兵カヲ新移駐地ニ先發セシメテス

二 本部ヨリ副官及主計將校各由隊ヲ下士官一兵一ヲ明二十九日新移地

派遣スル

明二十九日、入言本部前ニ集合シ志村大尉ノ區處ノ自動貨車ニ

依リ新移駐地ニ先行スヘシ

先發者、糧秣十日分ヲ携行スルモノトス

三 先發者、前任部隊ニ連絡シ一日三日夕迄ニ設備準備ヲ完了スル

獨任正命令第十一號隊長 美田 大佐

下達法 電話ニ依リ要旨ヲ傳ヘ後印刷交付

獨任正命令第三四號

大隊命令 佐々木

一 轉營ノ設備トシ左記如ク先發者ヲ玉城村ニ派遣シ大隊副官ノ指

示ニ依リ設備ニ任ズ

左記

一 大隊本部ヲ副官主計 下官一 兵一

二 各中隊ヨリ 下官一

三 大隊副官尾崎中尉ハ副官人員ヲ指揮大隊全般ノ設備ヲ區

處ヘシ

出發時刻其他細部ニ関シハ取隊副官ノ指示ヲ受ケル

服裝ハ出發時ノ服裝シ糧秣一分携行ス

大隊長 西村少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ受集メ口達筆記セム

第一中隊陸軍一等兵上田三武ヲ打撲性早急大七助雅次親ヲ専念場

養病ニ入院ス

二 本日人員左ノ如シ

將校 二 下官 七 兵 三 計 四 五 九

轉中隊

人 事

一月二十九日
月曜日
北谷村 八川

受領命令

- 一 大隊ハ陸地橋築用木材採伐業ヲ實施ス
 - 二 北谷村勞務者九名 補助勞務者九五名出場ス
 - 三 〇七三〇尾崎中尉以下八名 獨混五作命令第三號ニ依リ先發隊トシテ出發ス
 - 四 大隊長ハ〇九〇〇各中隊命令受領者ヲ集メ移駐ニ関テ指示シ四・ヨリ廣瀬少尉ヲ伴ヒ輸送連絡ヲ爲嘉子納ニ出張ス
- 獨混五作命令第三七號
- 獨立混成第十五聯隊命令 一三九・九三〇
- 一 聯隊本部 幹部ヲ新移駐地ニ先行セシメ陸地ヲ引越テ安良施スルトテ彈藥資材一部ヲ運ニ新移駐地ニ前送セシム
 - 二 本部及各中隊ハ所要幹部ヲ新移駐地ニ派遣シ新陸地ヲ引越ニ任セシム
 - 三 移駐ニ爲旅團 配屬ナル自動車ヲ明五百〇〇ヨリ百〇〇地左記如ク配屬ス
- 各大隊 各々 一 本部及獨者隊ハ 二
- 四 本部各隊ハ兵器彈藥等重要資材ヲ前頃自動車ニ依リ逐次前

- 送シ其ノ他資材ハ自隊ニテ獲得セル河馬重ヲ以テ可ク運ニ前送スルセシメ
- 區處スシ 獨立中隊ハ本部ヨリ荷馬車三・輛ヲ配屬ス
- 獨立混成第十五聯隊長 美田大佐
- 下達法 印刷交付
- 獨混五作命令第三八號
- 獨立混成第十五聯隊命令 一三九・四〇〇
- 一 軍ハ防衛部署一部ヲ變更ス
 - 二 旅團ハ二月〇日迄ニ知念半島方面轉移シ新防衛作戰地域ノ防衛ニ要スル戰術戰術ヲ決定ス
 - 三 第三大隊ハ二月三〇日・現露陸地ヲ離レ 胡屋一 高京一 津霸一 堤那原一 佐敷村ヲ經テ 前日天明迄新作戰地域ニ轉移シ 防衛線ニ作戰準備ヲ継承實施ス
 - 四 第四大隊ハ二月三〇日・現露陸地ヲ發シ

一月二十九日
月曜日
北谷村焼入川

受領命令

- 一 大隊ハ陣地構築用木材伐採作業ヲ實施ス
 - 二 北谷村勝務者九名 補助勝務者九五名出場ス
 - 三 〇七三〇尾崎中尉以下八名 獨混五五作命第三號ニ依リ先發隊トシテ出發ス
 - 四 大隊長ハ〇九〇各中隊命令受領者ヲ集メ移駐ニ関スル指示シ「四」ヨリ廣瀬少尉ヲ伴ヒ輸送連絡ノ爲嘉子峯ニ出張ス
- 獨混五五作命第二七號
- 獨立混成第十五聯隊命令 一〇二九・九三〇
- 一 聯隊本部幹部ヲ新移駐地ニ先行セシメ陣地ヲ引継テ安貞施スルト共彈藥資材一部ヲ運テ新移駐地ニ前送セシム
 - 二 本部及各中隊ハ所要幹部ヲ新移駐地ニ派遣シ新陣地ヲ引継任セシム
 - 三 移駐ノ爲旅團ヲ配屬サレシ自動復車ヲ明三〇ヨリ前送左記如ク配屬ス
 - 各大隊 各々 一 本部及獨吉隊ハ 二
 - 四 本部各隊ハ兵器彈藥等重要資材ヲ前項自動車ニ依リ逐次前

- 送シ其ノ他資材ハ自隊ニ獲得セル河馬車ヲ以テ可ク速ニ前送スル也
- 區處スシ 獨立中隊ハ本部ヨリ荷馬車三輛ヲ配屬ス
- 獨立混成第十五聯隊長 美田大佐
- 下達法 印刷交付
- 獨混五五作命第二八號
- 獨立混成第十五聯隊命令 一〇二九・九三〇
- 一 軍ハ防衛部署一部ヲ變更ス
 - 二 旅團ハ月〇日迄知念半島方面轉移シ新防衛作戰地域ハ防衛ニ關スル共同方面ニ於テ第六二師團ヲ作戰準備ヲ繼承シ夜間機動ニ關スル事項ハ地域ニ轉移セシム
 - 三 第二大隊ハ現露營地ヲ廢シ 胡屋一 高原一 津崩一 現露營地ヲ廢シ 津崩ヲ經テ月〇日天明迄新作戰地域ニ轉移シ 防衛地ニ作戰準備ヲ行ハス
 - 四 第一大隊ハ月〇日迄知念半島方面轉移シ新防衛作戰地域ニ轉移シ

陣中紀略

柳屋—高原—津霸—與那原—新里—上親慶原ヲ終テ
二月一日天明迄ニ新移駐地ニ轉移シ防衛及作戰準備ヲ継承實
施スシ

第三大隊(月三十一日)現露營地ヲ發シ

山内前—青天閣—首里—與那原—指嶺ヲ經テ二月一日

天明迄ニ新移駐地ニ轉移シ防衛作戰準備ヲ継承實施スシ

五聯隊砲中隊及速射砲中隊ハ第三大隊ニ續行スベシ

工兵中隊ハ海岸通ヲ第三大隊ニ續行スベシ

六各隊ハ残置物件ノ監視及残務整理ノタメ左記人員ヲ殘置スベシ

左記

大隊 將校 一

中隊 下士官 二 兵 一〇

残置人員ハ山谷少尉ヲ指揮ニ依リ残務整理及資材前送ニ任ル
後遺棄原所屬ニ送及スベシ

七山谷少尉ハ聯隊殘置部隊指揮官トシ二月三日ニ以降殘置部隊

ヲ指揮シ残置物件ノ監視及前送ニ任スベシ

八通信班ハ部隊ニ出發伴ヒ逐次現通信網ヲ撤シ新防衛地區ニ於テ

通信網ノ構成ニ任スベシ

九余ハ二月九日島袋發海岸通ヲ經テ三城村屋敷部ニ至ル

獨立混成第五聯隊長 美田 大佐

下達法 印刷交付

補充一五作令第二九號

獨立混成第五聯隊命令(第一五二二號)

一旅團ハ喜望峯集積地陸地構築用枕木運搬送船必要九ヨリ

即前輸送ス

二聯隊ハ前項輸送機効ノ為所要ノ兵力ヲ差出スベシ

三各隊長ハ左記人員及兵員ヲ指揮シ(第一五二二號)運用司令部ニ差シ
松下大尉ヲ指揮下ニ服務セシムベシ

左記

差出夫力

大塚澤集

工 下官下書

149-150集

II , ,

III , ,

IV , ,

V , ,

VI , ,

第一第二大隊より差出下官夫力内ニ概開銃手各三ノ合ニシメ

高射砲準具携行セシム

四 細部ニ関シテハ同澤大尉ヲ指示セシム

獨立混成第十五隊隊長 美田大佐

下達法 電話ヲ要旨ヲ傳ヘ彼印刷交付ス

獨混三五隊命第三五號

下達正命令

大隊命令

一三九行

一 各中隊ハ將校一傳令一ヲ明ニシテ新澤駐地ニ旅道シ新正地引續キニ任ス

但シ機關銃隊ハ開井中尉先行シ中隊ノ引率ハ先任將校トス

二 前頭人員ハ九ノ迄ニ大隊本部ニ集合シ大隊長ヨリ所屬ヲ指示受シ服裝ハ出費時ノ服裝ニ糧秣一ノ合携行ス

大隊長

西村少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

獨混三五隊命第三五號

大隊命令

一三九行

一 軍ハ防衛部署ニ部ヲ變更ス

旅團ハ前日ニ於テ旅團本部方面ニ轉移シ新正地ニ駐地シ防衛

ニ任シテ大同方面ニ於テ第六二師團ノ作戰準備ヲ継承實施ス

二 大隊ハ獨混三五隊命第三五號ニ據リ旅團ノ防衛ニ協力シ旅團ノ防衛ニ協力ス

新防衛作戦地勢轉移ニシテ

防衛任務相互轉移時機ハ二月日ハトス

三各隊ハ中隊長ハ引率以二月三日元。現露警地ヲ發シ山内前

香又間首里與那原相嶺ヲ經テ二月日天明迄ニ新形駐地ニ轉

移シ防衛作戰準備ヲ継承實地スシ

四各隊ハ残置物件監視ニ殊務整理ノ為左記人員ヲ派遣ス

左記

大隊本部 廣瀬少尉 下士官 三 兵一。

各中隊 〃 〃 〃 〃

残置人員ハ廣瀬少尉ヲ指揮ヲ受ケル

五廣瀬少尉ハ既隊殘置部隊指揮官ト各少尉ヲ指揮ヲ受テ大隊殘置

部隊ヲ指揮シ残置物件監視ニ前送ニ任ズ

六彈藥搬送ノ為各中隊ヨリ兵二名宛ヲ明三日ヨリ二月三日ニヨリ間

清水佐長ノ下ニ差出英指ヲ受ケル

明三日、差出時刻ハ八・トシ場所ハ大隊本部トス

七余ハ二月三日ハ。佐久川發海岸通ヲ經テ屋嘉部ニ至

大隊長 西村少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セム

獨混五五五命令第三七號

大隊命令 一・二九二一三〇

一取隊ハ旅團ニ在り地構築用杭木輸送ヲ援助ス

二大隊ハ前哨輸送援助ヲ獨混五五五命令第三九號ニ基キ左記ノ兵力

ヲ差出サントス

三各隊ハ左記人員ヲ明三日ヨリ送旅團司令部ニ差出シ山下大尉

指揮下ニ服務セシム

第七中隊 下士官 一 兵 三

第八中隊 下士官 一 兵 三

陸軍中隊

第九中隊

兵三

大隊長 西村少佐

下達法 要旨ヲ傳ヘ後命令受領者ヲ集メ違筆記セシム

一月三十日

火曜日 曇

北谷村在久川

一 大隊ハ移駐準備ヲス

二 獨混五西隊命令第三五號ニ基キ野井中尉以下九名新移駐地先入

三 旅團ヨリ輸送間自動貨車陸軍輜配署ナル

獨混五西隊命令第三八號

大隊命令

佐久川

一 大隊八明後首ヨリ任地ニ到着セバ王城村ニ宿營ス

二 各隊ハ左記ノ如ク露營スシ

左記

大隊本部

王城國民學校及其附近

第七中隊

王城國民學校

第八中隊

前川

第九中隊

富里

第三機関銃中隊

指揮班及小隊ハ屋嘉部ニ小隊前川

三 警備ニ各隊毎ニ面禁煙書式ニ依ルシ

對空監視ハ各中隊毎ニ宿營地附近ニ設クハシ

四 炊事ハ本部各隊毎ニ實施スシ

五 宿營及炊事細部ノ關シハ現地ニ於テ大隊副官並ニ計ラセテ

指示セシム

六 余ハ明三十日九時出發王城國民學校ニ到ル

大隊長

西村少佐

下達法 先ツ要旨ヲ傳ヘ後命令受領者ヲ集メ違筆記セシム

一月三十日

水曜日 晴

一 九〇大隊長以下八名新移駐ニ向ヒ出發ス

二 大隊主力ハ獨混五西隊命令第三六號ニ基キ各中隊毎ニ新移駐地ニ向ヒ

陸軍中隊

北谷村佐介
高尾野五
坂野村二修等

出發ス

三二一三〇大隊新任地到着

四千後ヨリ大隊長ハ副官ヲ伴ヒ地形偵察ヲ實施ス

五各隊ハ百里市ニ於テ大休止ヲナシ行軍續行新任地ニ向フ

人

一現在人員佐介等

佐介	五	計
高尾野五	三〇	
坂野村二修等	四五	

附表第一

對戰車肉攻教育計畫立案ニ関スル指示

昭和十年一月七日 第五隊長 西村少佐

各中隊長對戰車肉攻教育計畫ヲ一月十日迄立案シ大隊長ニ提出スヘシ
計畫上特ニ着意スヘキ事項ヲ左記ノ如ク指示ス

左記

一 敵戰車行動ヲ正當判断シ之ニ基キ計畫ヲ立案スヘシ

例ハ敵戰車ノ數ハ如何ナル程度ナルヤ種類ハ如何ナルヤ敵戰車
ハトノ地區ヨリ來ルヤア障礙ニ遭遇スルヤ爾后如何ニ行動スルヤ
等ヲ十分考究スルヲ要ス

二 第五隊長桑江道及陣地正面校線ヲ沿フ地區ヲ第五中隊ハ九五高地ノ右
前凹地ヨリ攻撃陣地側背ニ敵戰車ヲ行動スル場合及主要道路兩側地區
ヲ第六中隊砂邊高地北側本道上及共兩側地區ヲ機關銃中隊ハ九五高地
附近ニ於テ機關銃自衛爲對戰車肉攻計畫ヲ立案スヘシ

三 伊豆島ニ於テ先般對戰車地設視察等現地ニ於テ隊長殿善小官カ

放棄ニシテ事項ヲ具現スル如ク計畫スヘシ

四 火焰戰車ヲ對テ攻撃車隊領ヲ計畫ニ部ニ加味セヨ

五 夕敵戰車ヲ攻撃シ來ル場合ヲ設想シ數次(數段)ノ攻撃ヲ準備スルト共各糧資材ヲ待用活用スヘシ

六 敵戰車ニ對シニ乃至三名ノ歩兵ヲ隨伴シテ通帯スルヲ以テ之等ニ對スル處置ヲ適切ニスヘシ

七 肉攻手及肉攻壕ノ徹底シテ偽裝ト遮蔽

八 部隊現況ニ鑑ミ少キ人員ヲ以テ各種狀況ニ應ジ自由ニ行動シ得ル如ク工夫スヘシ

例(八)肉攻壕ヲ敵ニ發見セラレタ場合ハ地下道ヨリ他肉攻壕ニ移動シ機ヲ失セス攻撃ヲスル等

九 攻撃不意急襲主義ニ徹底シ然モ其ノ欲スル時機ト地矣ニ於テ攻撃ヲ行フヘシ

一〇 肉攻手ニ導火線燃燒時秒ヲ十分知悉セシメ莫火時機ヲ適切ニ且確

附録一

實ニ其火ヲサシムル如ク演練スヘシ

二 攻撃部隊戰車ノ底飯部トシ爆藥ヲ戰車前方(不發テ)ヨリ確實ニ押入セシメ爾后ノ退避ヲ適切ナラシムヘシ

肉攻手ハ自爆精神ヲ徹シテ尤モ主義トスルニ而幹部特任隊長ハ肉攻壕ノ適切ニ利用スル地形ヲ修退避セシメ得ル場所ハ退避シ得ル如ク計畫スヘシ
導火線ノ長さ之ノ趣旨ニ依リ研究シ置クヘシ

三 對戰車大砲 一般火カト肉攻手ト協調ヲ適切ナラシムヘシ

四 攻撃方法 資材等創意莫クニ努力シ精魂ヲ傾注スヘシ

審判官ヲ豫メ教育シ審判ヲ適切ニスヘシ 審判官ノ舉動態度審判
適宜ハ兵ノ教育ニ莫ク尤モ影響ヲ与ヘコトニ留意スヘシ

五 中隊長以下全員肉攻手ナルニ主義ニ徹スヘシ

火ヲ車スルニ對戰車肉攻手ノ教育ヲ適否ハ地上戰斗ノ勝敗ニ關スル重要事項ナルヲ以テ先シ基礎訓練ヲ十分スルト共之ガ計畫ニ當リテ現地ヲ十分踏査シ且シ豫メ構築セシ地攻及攻撃車資材ヲ特ニ創意ニ

勉々精魂ヲ傾注シテ必勝確實ナル計畫ヲ立案スルヲ要ス

附表第二

教育訓練ニ關スル指示大綱

昭和三十年一月十九日

第三大隊長 西村少佐

大隊訓練計畫實施上留意スル事項左記如ク指示ス
各隊本指末ニ基キ訓練計畫實施スルニ

左記

- 一 訓練計畫及實施ハ當面狀況ニ基キ決定スルモノト雖モ先ツ戰場緊急訓練ニ徹底シ直ニ戰場ニ堪フルニ至リテ狀況上ヲ許ス從ヒ其ノ訓練ヲ擴充シテ之ヲ完成ス但シ此場合ニ於テモ主要ナル基礎的訓練ヲ十分ナラシムルニ着意ス
- 二 訓練ニ關スル計畫等定立ニ當リテハ基礎的教育ト綜合訓練ト調和ヲ適切ニシ且各種勤務及作業ト連繫ヲ密ナラシムルヲ要ス
- 三 戦闘任務ニ即スル教育ヲ反復訓練ニ必勝確信ヲ堅固ナラシムルヲ要ス戰鬥任務位置ニ於テ此兵器此地物此地形ヲ如何ニ狀況ニ應ジテ活用スルヤ

四 防禦戰時ハ防空訓練會ヲ戰時ニ於テハ極ニ下等ナル状態ニ於テ
 急起シテ隊ハ規模且教團ヲ飛行機 艦艇 砲 空挺部隊
 等ニ及テシテ優勢ナル敵軍中戰車ヲ攻撃スルヲ通常ノ訓練
 實地演習トシテハ絶ニ此等之ヲ信使シテ何レ場合ニ於テモ對戰車戰鬥
 砲彈對果トテ教育ヲ示シテ大ニ力ヲ傾倒スルカニス

五 機動及攻撃戰時法訓練ハ任務達成上極ニ重要ナルコトヲ機會ヲ設ケ
 テ實施スルニテ緊要ナリ而シテ機動ニ在テハ敵列ナル砲彈ヲニ於テ陣内
 及陣外機動ヲ實施スルニ又攻撃戰時法訓練ハ前線下全部隊
 戰車 敵橋頭堡ニ攻撃ヲ訓練スルコトナリ

六 遊撃戰時訓練ヲ重視シテ地形ノ諳識ヲ準備スルヲ施設利用上亦
 リ小數兵力ヲテモ迅速奇襲行伏及誘致攻撃等ニ依リ敵軍ヲ破
 推テ橋頭堡ニ設置シテ好守ヲ行ヒニシムルコトナリ

七 夜間ハ何レ場合ニ於テモ戰車ニキ好機ナリ故ニ之ヲ訓練ヲ重視シ特
 地形諳識ヲ準備スルヲ戰時利用上亦ク有ニテ夜間ハ困難性ヲ克服シ

夜戰必成ノ域ニ到達セシムルヲ要ス

八 重火器及小銃輕機ヲ以テスル對戰車射擊訓練ヲ重視シ初聲必中ノ
 域達セシムルヲ要ス之ヲ為射擊豫行演習ヲ重ク著意スルコトナリ

九 對空射擊及對空行動ノ訓練ヲ重視シ有テ火器ヲ以テスル敵機撃墜
 率領ヲ演習スルコト共ニ對空速藏掩護等要領ヲ周到ニ教育スルヲ要ス

十 幹部死傷セル場合極端ニ致セル場合兵器損傷セル場合等訓練ハ
 愈々重要ナルヲ以テ之ヲ教育員ノ十分ナラシムルコト共ニ近接戰鬥中突撃
 及對戰車内攻並ニ工兵の技術(爆藥物取扱持火點攻撃 側防護
 備障碍物處理等)ヲ訓練シ兵ニ至ル迄自ラ信テ戰鬥ヲ得ルニ至
 ラシムルコト緊要ナリ

十一 刺突教育 將ヲメ(直吏)射擊ヲ重視シルニテ機會ヲ捉ヘシカ教育
 ヲ深クニ實施スルコトナリ

十二 幹部以下不眠不休不食不飲能ク連續シ長時日戰鬥ニ耐ヘ得ルコト共ニ
 長期ニ亘ル陣地内休息ニ慣熟セシメ如何ナル難關ニ遭遇スルモ飽

ク道旺盛ニシテハ精神ニシテニシテ...

三、特種部隊及先鋒隊ニシテハ...

去、彼我ノ物ノ戦カニシテ...

附表 第三

訓示

米鬼遂ニルソシ島ニ侵攻シ...

一、將兵訓練精到ニシテ...

存ルベカラス

二 戦力維持培養ニ就テ

戦力維持培養ニ徹底スル努力ヲ傾倒シ以テ戦力増強ナル戦ヲ遂行シ遺憾ナキ期
スニ優越スル飛行機及艦艇ヲ以テ海洋ノ補給ヲ遮断スルハ勿論眞面目ナル攻
撃ニ先テ熾烈ナル砲爆(銃)撃ヲ連續シ陸上交通ヲ遮断シテ戦力徹底の
破壊ヲ策スル敵ヲ撃退手段ニ於テ特ニ然リ上カ爲指揮官以下有スル手段
ヲ盡シテ砲爆對策ノ十全ヲ期スルト共ニ補給ヲ確保シ糧秣資材等ノ現
地自活ノ方途ヲ講シ且シ健兵對策ニ徹底スヘシ

三 重火器及砲兵ト協同ニ就テ

重火器ト協同適至ハ戦勝ニ重大ナル影響アリ特ニ九五高地附近ニテ聯隊
砲連射砲ト協同ヲ密スヘシ

又旅團砲兵ト協同ニ於テモ亦然リ

四 諸隊ト協同

飛行場諸隊船舶基地大隊ト協同ヲ緊密ニシ眞ニ一體ノ實ヲ發揮スヘシ

此方爲萬難ヲ排シテカ敵ヲ援助スルヲ要ス

五 在郷軍人青訓地方民戦力化ヲ期スルニ在リ

六 創意工夫

凡ソ戦闘慘烈ノ極所ニ於テ絶大威力ヲ發揮シ或死地ニ活路ヲ打開スルハ有ユル
智能ヲ絞ル獨白ノ創意工夫ニ存ス故ニ大隊將兵ハ事ニ從テ其ノ大小輕重
ヲ論ズテ堂内ノ各種備狀能ハ的確ニ把握シ全皆全能ヲ盡シテ最良手段
方法ヲ案出シテ達成ニ最大ノ努力ヲ傾倒セサルハカラス而シテ戰局ノ奇烈ト
スル打開ノ困難トハ日ト共ニ甚シク敵亦必死ニ對應ノ處置ヲ講スルヲ以テ今日奇
策明日及ビ難ク一地利術他所ノ良案ヲ得ナルニ鑑ミ嚴ニ形式ノ模倣ニ墮ス
ルヲ戒ミ千變萬化變ニ善套ニ因ルコトナク凡百ノ事絶天ノ創意工夫ヲ
加ヒ敵ヲテ端倪スルヲ得ザラシムルハカラス

此ヲ要スルニ吾等ハ常ニ機ニ先ツテ諸般ノ準備ヲ完整シ絶對優勢
ナル敵ノ攻撃ヲ破壊シシ、長日月ノ間克期後ナル戦闘ヲ持續シ
以テ全軍戦捷ノ途ヲ拓クニ在リ

制空制海權全ク敵手ニ陥リ彼我ノ物的戰力懸絶スル等ノ難況ニ於
テ能ク其ノ任務ヲ全スルハ繫ニテ將兵ノ偉大ナル精神ヲト擧固ナル
團結力ト存ス故ニ諸官ハ至誠純忠ニ克ク攻撃精神ヲ發揚シ隊
長ヲ核トスル鐵石ノ團結ノ下堅忍持久最後ノ一兵トナルモ毅然
トシテ必勝ヲ確信シ其本領ヲ究ウセシトヲ望ム

昭和二十年 一月二十日

獨立混成第十聯隊第三大隊長

陸軍少佐 西村信義

附表第四

軍主力方面ノ移駐ニテ各隊ニ與ル旅團長訓示

旅團主力ハ今般更ニ移駐ヲ命セテ軍主力方面ニ於テ重要ナル
正面ヲ担任スルナレリ惟ニ旅團主力ノ國頭方面ヨリ移駐ニテ
茲ニ約ニテ月各部隊ハ本職統率ノ下數次ニ亘ル敵機ノ來攻ニ
備ヘシ勦精克ク作戰ノ準備ヲ整ヘ以テ待ツアルヲ恃ムリ然ルニ
今又移駐ヲ行分ルヘカテ人之情ニ於テ忍フヘクテアルモノアリト雖モ
軍全般ノ爲トシテ如何ナル難事ヲモ甘受シ益々志氣ヲ昂揚シ愈
々準備ノ優越ト訓練ノ精利トヲ期セサルヘカラス
移駐ニ關シテハ既ニ數回ノ經驗ニヨリ遺憾ナキヲ信スルモ重要
ナル時機ニ際シテハ會シテ特ニ過去ノ教訓ヲ想起シ左ニ注意ヲ喚
起セシトス

一 戰況即ニ應リ態勢ヲ保持シ特ニ敵ノ空襲ニ備マルヲ要ス
警戒ヲ嚴ニシ行動ヲ秘密ニ掌握ヲ確實ニシ常ニ戰況ニ應
スルノ用意ヲ要トスルハ勿論敵機ノ偵察特ニ空襲ニ當リ

貴重ナルハ馬兵器彈藥等ヲ損耗セザルコトニ關シテハ絶對的ニ注意ヲ要ス

二 皇軍クルリ矜持ヲ失セザルヲ要ス

對住民就中軍紀風紀金錢支拂物件ノ貸借等ニ於テハ假令誤解ニ基クト雖モ住民ニ疑惑ヲ懷カシムルコトアルヲ以テ細心ノ注意ヲ要ス

特ニ當地才民ノ特性ノ移駐時ニ於ケル人情ノ機微トヲ洞察シ遺憾ナキヲ期スヘシ

三

宿營ニ於テハ戰術本位ニ徹シ公共建築物ノ利用ニ努ム已ムヲ得ス民家ヲ利用スル場合ハ雖モ婦女トノ混住ハ絶對ニ之ヲ許サズ材料ノ許ス限リ速ニ兵舎ヲ建築スヘシ

四

宿舎兵舎ノ選定ニ當リテハ先ツ防空施設ニ着意ニ要スレバ之ヲ急設シテ對艦砲射撃ニモ遺憾ナキヲ期スヘシ
前駐部隊トノ間ニ感情ノ衝突ヲ來スヘケラス

五

互ニ提携シテ同一戰場ニ生死ヲ共ニスヘキ戰友間ニ於テ此ニ爾後ノ作戰ニモ影響者スヘキモノナルヲ前駐部隊ノ殘置兵員及物件ニ就テ殊ニ然リトス

防諜上ノ注意ヲ倍徒スヘシ
言動ヲ慎ミ機秘書類ノ紛失ナキハ勿論特ニ中頭方面ノ兵力ヲ稀薄ク敵ニ察知セシレタル場合ニ於ケル軍ノ不利カ如何ニ大ナルヤニ想ヲ致シ細心ノ注意ヲ要ス

以上ノ外軍ノ作戰構想ハ新舊兩地區ニ於テ當兵團ニ與ルル作戰任務ニ大ナル差異アルヲ以テ各級指揮官以下克ク之ヲ判ヘ新任務ニ基ク必勝方策ニ遺憾ナキヲ期ス

（シ）
最後ニ本職區處下ノ各部隊ハ克ク本職ノ意圖ヲ體シ軍紀風紀ノ刷新ニ將又作戰準備ニ恰モ本職隸下部隊ノ如ク愉快ニ服務スルコトヲ得ケルコトニ對シ更ニ

茲ニ敬ニ意ヲ表ス
戦局日ニ切迫シタルノ今日切ニ諸官ノ自重ト武運ノ長久トヲ
禱ル

昭和二十年一月二十日

獨立混成第四旅團長

鈴木少將

附録第一

昭和二十年一月二十二日

戰 鬪 詳 報

獨立混成第十五聯隊第三大隊

戦闘詳報

一 戦闘前ニ於ケル彼我ノ概要

敵ハ教日來ヨリ屢々B29一機乃至二機ヲ以テ本島上空ニ飛來シ偵察ヲ實施セリ又一月二十一日晝間敵艦載機ハ臺灣宮古島ニ來襲ニ十一日夕刻ハ敵機動部隊沖繩方面へ北上中トノ情報ニ接ス尚同E一〇二五兩機戰備下令セラル以上ノ狀況ニ鑑ミ大隊ハ對空監視ヲ嚴ナラシメ各隊毎ニ各々一々小隊ノ對空射撃部隊ヲ準備シ依然陣地構築作業ヲ續行中ナリキ

戦闘開始前ニ於ケル態勢附圖第一ノ如シ

二 戦闘ニ及シタル氣象地勢及住民ノ狀態

晴天ナレド高度一〇〇〇米乃至一五〇〇米ノ間斷雲去來シ對空監視ハ困難ナル狀況ナリキ 敵機ハ斷雲ヲ利用シテ急遽急降下シ銃爆撃ヲ實施スルニ容易ナク狀態ニマリ

地勢ハ一般ニ小起伏シ到レ處凹地アリテ敵ノ銃撃ヲ對シテハ損害ヲ避クルニ便ナリ

住民ハ殆ト大部村落ヨリ若干離レタル防空壕ニ待避セリ敵カ焼夷彈ヲ使用セバ火災ヲ防止スルニハ困難ナリシガ幸ニシテ當地方ニハ焼夷彈ヲ使用セズ

三. 我方ノ兵力

歩兵一ヶ大隊

四. 敵ノ編成裝備

ノ編成

艦載機(グラマン)ヲ主カトシテB4ヲ伴フ四機乃至八機ノ編成ニシテ延機數ニ六〇機ナリ

2. 裝備

(1) 機關銃	二十挺	機關銃	一二七挺
(2) 爆彈	二五〇挺		
		五〇挺	

3. 素質

敵操縦手ノ急降下ノ技術ハ概テ良好ナリ

十月十日南西空襲時ノ操縦手ニ比シテ技術稍々劣レルモト認め

五. 戦闘經過ノ概要

(一) 大隊ハ明黎明敵機ノ來襲ヲ豫期シ前夜兵器材料重要書類ヲ防空壕ニ搬入シ且二十二日ハ起床時刻ヲ一時間早ク諸準備ヲ完成シアリテ敵機來襲時ノ對空射撃ヲ其ノ他ノ諸動作ハ常時ヨリ命令シ意圖ヲ傳達シアリシヲ以テ對空射撃部隊ハ勿論大隊全員敵機來襲時迄ニハ己ニ各々對空部署ニ就キアリテ豫期スル如ク六四〇敵ハ來襲兩後數次ニ亘リ終日那覇讀谷山各飛行場船舶市街(村落)ニ對シ執拘ル銃爆撃ヲ反

覆實施マシ外一部ヲ以テ海岸地帯全般ニ亘リ偵察ヲ實施セ
第一波〇六四〇約一八機第二波〇八三〇約五〇機第三波〇九
三五數十機引續キ第四五六七波各十數機ヲ以テ自八四〇約
十二時間ニ亘リ各回(各波)共三機乃至八機ノ編隊ヲ以テ來襲
ス偶々第二波〇八四〇頃三機編隊ニテ胡屋方向ヨリ一〇二高地ノ西
側ヲ經テ高度約一五〇米ニテ砂邊海岸方向ニ向テ敵機ヲ一〇二高
地ノ西側高地ニ位置シアリシ對空射擊部隊(第三機関銃第一小隊)
ニ於テ其ノ先途機一機ヲ對空射擊ニ依リ確實ニ墜テ敵機
ハ對空射擊ヲ受クルヤ瞬時上昇シタルモ直ニ火ヲ吐キ煙ヲ吐キ
テ砂邊方向海中ニ墜墜ス當時大隊長ハ一〇二高地ニ於テ其ノ
狀況ヲ確認シ對空射擊部隊ニ對シ賞詞ヲ與ヘ士氣ヲ鼓舞
セリ
敵機墜當時ノ狀況附圖第二ノ如シ

- (一) 一二一〇敵機來襲ナク間斷時ヲ利用シ大隊長ハ各隊命令受領者
ニ對シ對空ニ關スル注意ヲ與ヘ其ノ實行ヲ要求ス(附表第一參照)
- (二) 二十二日夜ハ大隊ハ獨混一ヲ命令第一六時ニ基キ獨混一五四
炸命第二九號ヲ下達シ之ニ基キ對空ニ立上リ警戒ヲ終夜ニ亘
リ至嚴ニシ明黎明時以降ノ對空警戒ヲ嚴シク明シ乙號戰備
ニ移行ノマ、夜ヲ徹ス

六 敵機來襲方向

敵ハ那霸及小録飛行場ヲ銃爆撃シタル後當地區へ東方海岸ヨリ來
ルモノ又北中飛行場ヲ爆撃シタル後東方(西方)海岸ヲ經テ那霸及
首里方面ニ向テ、等各波(各回)ニ於テ編隊毎ニ分散進入シ其
ノ進入方向ハ區々タリ

七 受領及下達命令

獨混一五炸命第一五號

南地區隊命令

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一 敵大編隊沖繩本島ニ進攻中ニシテ、〇六、三五沖繩本島全地區空襲警報發令セラル

二 地區隊ハ速ニ對空戰備ヲ完整セントス

三 各隊ハ直ニ乙號戰備ニ移行シ、常時情勢即應ノ態勢ニテリテ陣地構築作業ヲ續行スヘシ

四 余ハ戦闘指揮所ニ在リ

南地區隊長

美田大佐

大隊命令

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一 〇六、三五空襲警報發令乙號戰備ニ移行(聯隊長ヨリ電話アリ)

〇六、四〇敵機一八機佐久川上空ニ飛来シ来ル

二 大隊ハ乙號戰備ニ移行シ、應ニ示セル對空部署ニ就カントス

三 對空射撃ハ敵機近接(高度距離二百米以内)ニ降下シ場合、ミットシ射撃スヘカラス

四 各隊共對空監視ヲ嚴ナラシメ、敵機上空ニナク場合ハ陣地構築作業ヲ續行スヘシ

大隊長

西村少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

南地區隊命令

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一 今朝下執拗ニ攻撃セシ敵機ハ逼近海ニ在ルモノ、如シ情勢ノ推移ハ豫斷ヲ許サス

二 地區隊ハ今夜對空對海上警戒ニ厳ナラシメ、ツツク夜ヲ徹シ、明ニテ天明以降ノ戰鬥ヲ準備セントス

三 各隊ハ今夜對空射撃對海上警戒ヲ至嚴ナラシメ、情勢ニ即應ニテ態勢ヲ以テ明ニテ黎明以降ノ戰鬥ヲ準備スヘシ

四 第一大隊ハ嘉手納水釜附近ノ對海上警戒ヲ至嚴ナラシムヘシ

五 第三大隊ハ砂邊附近ノ對海上監視哨ヲ強化スルト共ニ一部ヲ桑江附近ニ派遣シ北谷村沿岸ノ對海上警戒ヲ嚴ナラシムヘシ

六 工兵隊長ハ本部戰術指揮所高地ノ兵力ヲ増強シ本夜對空對海上警戒ヲ至嚴ナラシムヘシ

七 各隊ハ明二十三日黎明以降ノ對空處置ニ遺憾ナカラシムヘシ

南地區隊長

美田大佐

八 余ハ戰鬥指揮所ニテ

獨混一五西作命第一九號
大隊命令
敵機空襲隊近海ニアルモノ、如シ
一ニニ一八三
作 久 川

二 大隊ハ獨混一五作命第一六號ニ基キ本夜ハ特ニ海上監視ヲ嚴アラシムト共ニ黎明以降對空部署ノ定整ヲ期ス

三 各隊ハ累次ニ於テ示セル對空部署ニ基キ夜ヲ徹シ黎明以降ノ對空戰術ヲ準備スヘシ

四 第六中隊ハ桑江西岸海面ノ警戒ヲ、終夜ニ亘リ所屬警戒兵ヲ配置スルト共ニ巡察ノ概キニ應ジ速達スヘシ

五 第九中隊ハ砂邊高地ノ兵力ヲ増強シ終夜ニ亘リ海面ノ警戒ニ任セシムヘシ

六 余ハ佐久川南側戰術指揮所ニ在リ
大隊長 西村少佐
下連隊 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記マシム
連絡設備ノ狀況
特記事項ナシ

九 敵ニ與ヘル横害
飛行機一機撃墜
一〇 戦死傷

二 武器彈藥損耗表 附表第二、四、五
三 本戦闘ニ特ニ功績アリタルモノ

獨立混成隊一五聯隊第二機關銃中隊
分隊長 陸軍 軍曹 大宮 義雄
射 手 陸軍 一等兵 佐藤 規雄

右、者對空射撃第二分隊長又ハ射手トシテ至近距離ニ於テ
銃撃ノ威震ニレ敵機ニ對シテ沈着シ勇敢ニ分隊長トシテ又
射手トシテ其、任務ヲ充遂シ遂ニ敵機一機ヲ確實ニ撃墜ス

一三 散訓

一 敵機雲中ヨリ來意ニ未襲シ來リ防空壕ニ入レ暇ナキトキハ所在ノ
地形地物(依地)ヲ迅速ニ利用シ伏臥スル損害ヲ避クルコトヲ得
ニ 積穴ハ試可ク谷地、脚部ニ設ケ敵機銃火ヲ射テ積穴入口
ルヲ要ス 蒸地ノ谷地ノ脚部ニ設ケ敵機銃火ヲ射テ積穴入口
部ニ掩蔽ノ處置ヲ講スルコトヲ要ナリ 積穴ニ於テモ偽裝ヲ
完全ナラシムルコト特ニ緊要ナリ

三 敵機來襲時動クコトハ禁物ナリ 積穴ニ入リテハ敵機ニ
發見セラルレ積穴ニ向ヒニ四ニ一ニシテ發射スルコトヲ要ス 發射
氏一一名戦死(傷)ナリ

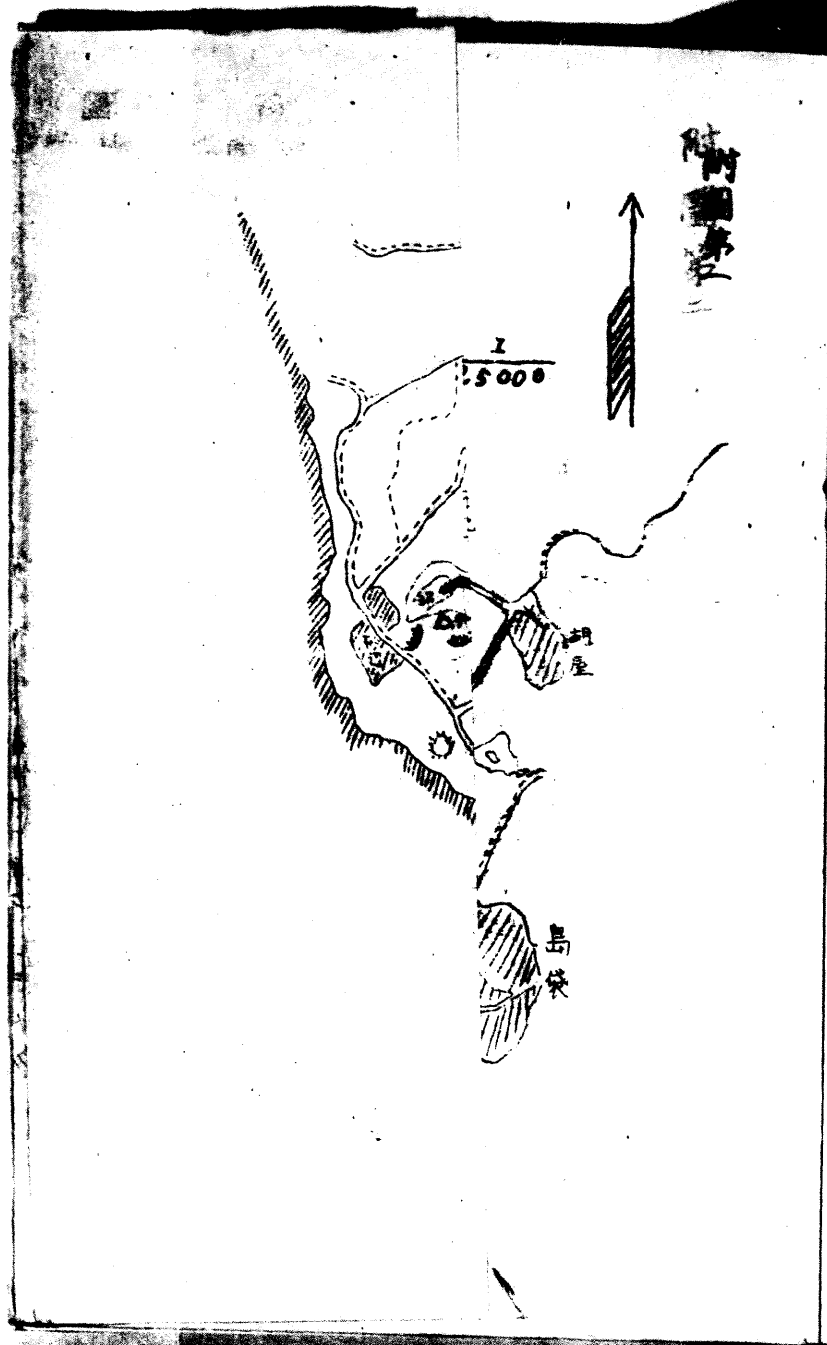
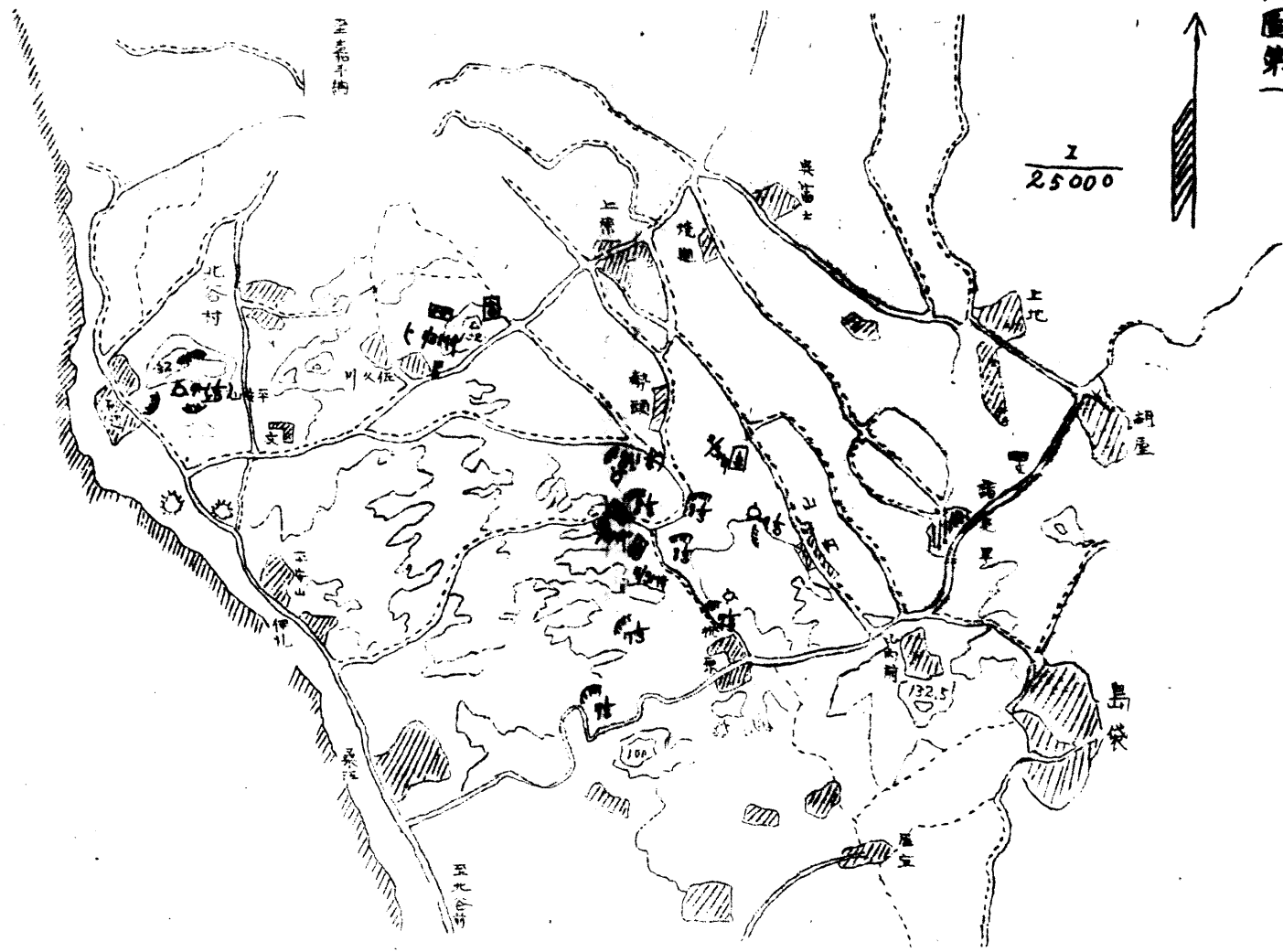


圖 要 備 配
日 二 十 二 月 一 年 十 二 和 國

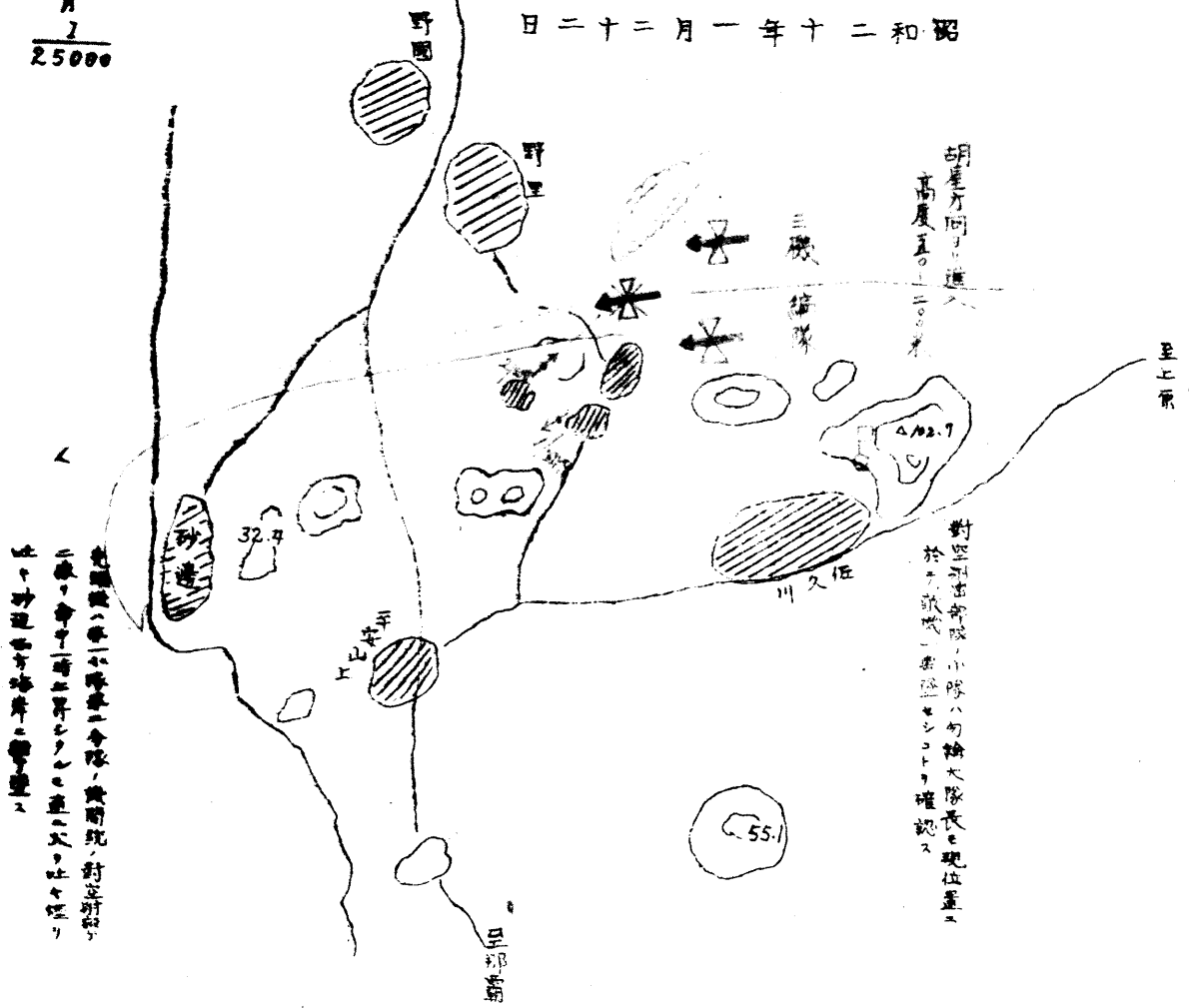
附圖第一



第三次ハ(八四)頃
至正東

擊墜時ニ於テ之狀況要圖
昭和十二年一月二十二日

2
25000



胡差方向ヲ進入
高度五〇二〇ノホ

三機
機隊

對空司令部隊ハ小隊ハ勿論大隊長モ現位置ニ
於テ歌歌一機ヲシテシヨトリ確認ス

先頭機ハ第一中隊隊長ニ向テ、後兩機ハ對空射撃ヲ
ニ施シ、中隊中隊長ニ向テハ直ニ入り、吐キ返リ
シ、中隊中隊長ニ向テシ

地圖第一



附表第一

對空襲之期スル注意

- 再三再四注意シテ、タルモ重要ナク注意ヲ與ヘ之カ確實ナル實行ヲ要求ス
- 一 對空監視ノ任務ヲ與ヘシラレタル者ハ、夜ヲ徹底的ニ備装サレタル哨壺内ニ於テ之ヲ監視スルニ任スヘシ。又空襲ノ間斷ヲ利用シテ備装ヲ強化スヘシ
- 二 空襲時鐵砲備装網等、不着裝ノモノアリ、事由ナク不着裝ノ者アリタルハ、戰間軍紀上嚴ニ注意ヲ要ス
- 三 傳令連絡兵等ハ、敵機上空ニナキ場合ノミ行動シ、然モ哨壺ヨリ哨壺ニ(低地、高地)逆次隱進シ、任務ヲ達成スヘシ。空襲時道路上及高所、通行ハ嚴禁ス
- 四 無用者敵機或ハ對空射撃ニ見守ル、タテ、壕外ニ出スルコトヲ禁ス
- 五 大隊長又ハ中隊長、計ハ命令受通者以外ハ、出入ノ距離間隔少クトモ一五米以上ヲ、疎開シ、哨壺及所在ノ地形及物ヲ充分

利用スルシ

之ヲノ空襲時ニ於ケル命令受領者集合、位置ハ所等ノ設備
ヲナシテモトス

六、敵ノ空襲警報發シテ、敵機一機ニ今後重要ナル書類及資料等ハ夜
間就寢前豫メ待避壕ニ移シ不寢番ヲナシテ敵機ニ兼テシム
ル如ク着意スルヲ要ス

丙、現職備警報發令ノ際ハ持テ然
但シ書類箱ニハ鍵ヲカケルカ、封印スルカ、處置ヲ講スルシ

七、陣地並ニ空襲時ノ待避壕、備表ニ關シテハ向一層、留意ヲ要ス
八、對空射撃ハ亂射ニ陥ラサル如ク、嚴ニ注意スルハシ

又、命令中確實ト推意スルハ外射撃スヘカラス

九、敵機ノ爆音アル際ハ一般ニ右に左に位ニシテヲ嚴禁ス
之ヲ要スルニ我等、敵ハ空挺部隊並ニ敵ノ上陸軍ニ對シテ戰闘ニ
シテ特ニ敵戰車ニ對シテ猛烈果敢ニ攻撃スルニテ

此ノ際敵ノ一般的ナ空襲撃ノタメ大隊將兵ニ一名ノ犧牲者ヨモ出
サレル如ク將校以下嚴ニ前項注意ヲ實行スルシ

昭和二十年一月二十二日十二時十分戰闘指揮訂ニ於テ

大隊長 西村少佐

附
七

信

五
五
〇

三
老
伊
五
〇

六
中
五
〇

五

君

合

五
〇

五

五
〇

五
〇

五

五
〇

細
時
三
年
一
月
三
十
二
日

大
器
五
〇
五
〇

輝
麗
翰
贈
第
一
部
本

